

## ．調査研究の目的及び方法

### 1．調査研究の目的

保育所の保育内容をより高めるために保育所が行っている低年齢児の保育実践などに関する調査研究を行い、保育所の保育内容の充実と向上に資することを目的とする。

### 2．調査研究の内容

次の項目等について調査研究を実施した。

調査票による調査研究（分析と考察）

- ・低年齢児（0歳、1歳、2歳）保育の状況
  - 生後何ヶ月から受け入れているか
  - 乳児（0歳児）保育実践歴
  - 乳児担当の職員体制
  - 乳児保育の担当制
  - 乳児の保育時間
  - クラス編成
  - 担当保育士
  - 看護師は保育士要員にふくまれるか
  - 最新育児情報の入手先
  - 運営面からの低年齢児保育
- ・低年齢児の保育内容について
  - 保育計画について
  - 成長発達の記録方法

低年齢児の送迎者

低年齢児の基本的な生活習慣の形成

遊びの設定

玩具の選択

低年齢児の家庭連絡

連絡帳で園から知らせている重点事項

低年齢児を持つ親（家庭）への支援

・低年齢児の給食等

母乳・ミルクの飲ませ方

手づかみ食べ

箸について

食育計画

食育の内容

アレルギー疾患の個別メニュー

栄養士、調理員と連携はとれているか

・低年齢児の保健、安全

入園の受け入れ準備

嘱託医の位置づけと定期健康診断

嘱託医は保育園に何回来るか

保護者に対する安全・保健指導

日常の安全管理

予防接種の保護者への勧奨

保育園での与薬

体調不良や事故による怪我の対応

心肺蘇生術の経験

保護者の育児参観・育児参加

家庭における子どもへの不適切な対応

積極的な健康づくり

### 3 . 調査研究スタッフ

巷 野 悟 郎 （こどもの城小児保健クリニック小児科医）  
須 永 進 （藤女子大学教授）  
大 方 美 香 （大阪総合保育大学教授）  
堀 田 芳 子 （東京教育専門学校講師）  
豊 永 せつ子 （のぞみ愛児園園長）  
中 村 美喜子 （若葉保育園園長）

### 4 . 調査期間及び調査時点

- ・調査票による調査  
自 平成19年 8 月 1 日  
至 平成19年 8 月31日  
（調査時点・平成19年 8 月 1 日現在）

### 5 . 調査の手続き

#### ア 調査対象保育所の選定

調査対象は、全国保育所数の10分の1抽出によるものとし、各都道府県・指定都市・中核市ごとの公民営別にそれぞれ10分の1を抽出した施設とした。

#### イ 調査方法

前項アで選定した調査対象保育所に対して、調査票を送付し、原則として保育所長に記入をお願いした。

#### ウ 調査票の回収数及び回収率（集計対象数）

項 目		か 所 数 及 び 回 収 率
調 査 票 配 布 保 育 所 数		2,280
調 査 票 回 収 保 育 所 数 ( 率 )		1,161 ( 50.92% )
内 訳	有 効 調 査 票 数 ( 率 )	1,153 ( 99.31% )
	無 効 調 査 票 数 ( 率 )	8 ( 0.69% )

## 6 . 整 理、分 析 基 準

調査票の集計に当たっては、次の基準によって整理、分析した。

### ア 経営主体別

地方自治体が運営する公営保育所と、社会福祉法人等が運営する民営保育所に大別している。 公営、 民営

### イ 地域区分別

地域特性を考察するために、全国を7区分に分類している。 北海道・東北地区、 関東地区、 東海地区、 北信越地区、 近畿地区、 中国・四国地区、 九州地区

### ウ 所在地区別

都市階級による特性を考察するために、全国を6区分に分類している。 都区部・指定都市（特別区並びに指定都市：東京23区、札幌、仙台、さいたま、千葉、横浜、川崎、新潟、静岡、浜松、名古屋、京都、大阪、堺、神戸、広島、北九州、福岡） 県庁所在市（指定都市を除く県庁所在市） 中都市（人口15万人以上で、指定都市、県庁所在市を除く市） 小都市A（人口5万人以上15万人未満の市） 小都市B（人口5万人未満の市） 町・村

### エ 定員規模別

定員規模により6区分に分類している。 45人以下、 46～60人、 61～90人、 91～120人、 121～150人、 151人以上

### オ 3歳未満児比率別

当該施設に在籍する3歳未満児の割合により、5区分に分類している。 0～9%、 10～29%、 30～49%、 50～69%、 70～100%

## 7. 整理分析担当

調査票の集計、整理、分析、まとめには、調査研究スタッフ全員が当たった。